

男性の地域活動への参画 好事例集

平成 24 年 5 月

内閣府男女共同参画局

はじめに

第3次男女共同参画基本計画では、「男性にとっての男女共同参画」が新たに重点分野とされました。男女共同参画社会とは、多様な生き方を尊重し、全ての人があらゆる場面で活躍できる社会であり、男性にとっても暮らしやすい社会であることについて理解を深めていく必要があります。そして、長時間労働の抑制等働き方の見直し、直面する介護の問題などの課題に対応するためにも、男女共同参画の理解に向けた男性に対する積極的な働きかけを進め、男性の意識や行動の変革につなげていくことが重要です。

そのような取組みを更に進めていくため、地域活動等に積極的に参画し、生き生きと活躍している男性の事例を事例集にまとめ、紹介していくこととしました。ホームページなどを通じて広く世の中にご提供していきますが、特に男性にとっての男女共同参画に取り組む地方自治体や、NPO法人の皆様に、男性の地域参画を進めるうえでのヒント集としてご活用いただけるものと考えています。

多くの男性が、子育て、PTA活動、まちづくり、福祉ボランティア、スポーツ、趣味を生かしたサロン、食育など、多岐にわたる分野で活動しています。

今回は、その様々な「きっかけ」に注目して作成しました。

- ・自分の生きがいのため、または問題意識から進んで参加したケース
- ・周囲の人の勧めで地域活動に目覚めていったケース
- ・自治体やNPOのイベント等をきっかけに地域活動に入っていったケース
- ・趣味や特技を生かして地域活動に乗り出していったケース

「きっかけがなければ地域活動には足を踏み出さなかったと思う」というお話もありました。地域活動のきっかけづくりの参考としてご覧いただけるものと考えています。

地域で活動している男性の多くは、活動を通じて広がった豊かな世界で、地域の役に立っていることに生き甲斐を感じながら、実に生き生きとされています。仕事中心で生きてきた男性の中には、地域活動はとっつきにくく、ためらう方もいるかもしれません。しかし、仕事の経験が地域活動に生かされているケースや、逆に地域で得られたことが仕事に生かされているケースも見受けられます。仕事と地域や家庭とを分けるのではなく、双方を貴重な経験として人生を豊かなものにしていくうえでも、参考となる事例集となっています。

最後に、事例集の作成にあたり、自治体の皆様からご協力をいただきましたことに、深く感謝を申し上げます。また、多くの好事例をご紹介いただきましたが、紙幅の関係ですべてを掲載できなかったことをお詫び申し上げます。このテーマについて、大勢のご担当の方が熱意をもって取り組んでいただいていることを励みとして、今後とも男女共同参画行政を推進していきます。

目次

I 好事例集について

| | |
|-----------------|---|
| 1. 事例選定の方法..... | 2 |
| 2. 事例集の見方..... | 4 |

II 男性の地域活動への参画事例

北海道ブロック

| | |
|--|----|
| 事例1 地域を元気にする、マチおこし研究所の活動（北海道安平町）..... | 8 |
| 事例2 パパ・スイッチ事業を通じてダメパパから脱却（北海道芽室町）..... | 10 |

東北ブロック

| | |
|---|----|
| 事例3 アウトドア活動でたくましい子どもを育てる（青森県五所川原市）..... | 12 |
| 事例4 夫婦二人三脚で作上げた市民のための交流サロン（宮城県塩釜市）..... | 14 |
| 事例5 地域の高齢仲間と楽しみながら凧や竹細工を創作（山形県山形市）..... | 16 |

関東ブロック

| | |
|--|----|
| 事例6 野球がつなぐ、家族、地域の絆づくり（群馬県みどり市）..... | 18 |
| 事例7 PTA・おやじの会に属し、地域の子どもたちを育成（埼玉県蕨市）..... | 20 |
| 事例8 子どもたちを笑顔にするためイベントに出動（埼玉県戸田市）..... | 22 |
| 事例9 マーマレード作りを通して、地域交流を活発化（東京都杉並区）..... | 24 |

中部ブロック

| | |
|---|----|
| 事例10 子育てパパ向けの大人気イベントを企画運営（新潟県柏崎市）..... | 26 |
| 事例11 参画型イベントで、若者を地域活動に巻き込む（福井県小浜市）..... | 28 |
| 事例12 手探りだから楽しい、男性だけの料理活動（静岡県掛川市）..... | 30 |
| 事例13 若者が元気に活躍できる場をおやじたちが創出（愛知県大口町）..... | 32 |

近畿ブロック

| | | |
|-------|-----------------------------------|----|
| 事例 14 | ストリートパフォーマンスで若者が元気なまちをつくる（三重県名張市） | 34 |
| 事例 15 | 市民センターと連携し、うつ病患者を積極的に支援（大阪府枚方市） | 36 |
| 事例 16 | 素晴らしい熟年男性を目指す、男の腕まくりOB会（大阪府羽曳野市） | 38 |
| 事例 17 | 子育てと地域づくりに「おやじ」のパワーを（兵庫県姫路市） | 40 |

中国・四国ブロック

| | | |
|-------|---------------------------------|----|
| 事例 18 | 男一人で、女性に混じって福祉ボランティアを牽引（岡山県里庄町） | 42 |
| 事例 19 | フリーペーパーの発行を通じて島おこしに貢献（山口県周防大島町） | 44 |
| 事例 20 | 父と子が“一緒”だからこそ楽しめる活動を実践（徳島県板野町） | 46 |

九州ブロック

| | | |
|-------|----------------------------------|----|
| 事例 21 | 皿回しと草笛で幼児から高齢者までの交流を促進（福岡県筑紫野市） | 48 |
| 事例 22 | 手遊び披露、趣味のサークルなど多様な活動を展開（福岡県筑紫野市） | 50 |
| 事例 23 | だんだん小屋が生み出す、高齢男性の生きがい（鹿児島県南九州市） | 52 |

III 資料編

| | |
|----------------------|----|
| 1. 男性の地域への参画に関する調査概要 | 56 |
| 2. 調査結果概要 | 57 |
| 3. 調査票 | 59 |

◆事例別キーワードインデックス◆

若年：20～30歳代、中高年：40～50歳代、高齢：60歳以上

| 事例番号 | 頁数 | タイトル | 活動地域 | 男性の年齢層 | ジャンル | | | | | | 活動単位 | 行政との連携 |
|------|----|---------------------------|--------------|--------|-------|-------|-------|-----------|-------|-----|------|--------|
| | | | | | 子育て支援 | 仲間づくり | まちづくり | アウトドアスポーツ | 趣味・技能 | その他 | | |
| 1 | 8 | 地域を元気にする、マチおこし研究所の活動 | 北海道 安平町 | 中高年 | | | ● | | | ● | 団体 | ● |
| 2 | 10 | パパ・スイッチ事業を通じてダメパパから脱却 | 北海道 芽室町 | 若年 | ● | ● | | | | | 団体 | ● |
| 3 | 12 | アウトドア活動でたくましい子どもを育てる | 青森県 五所川原市 | 中高年 | ● | ● | | ● | | | 団体 | |
| 4 | 14 | 夫婦二人三脚で作り上げた市民のための交流サロン | 宮城県 塩竈市 | 高齢 | | ● | | | ● | | 個人 | |
| 5 | 16 | 地域の高齢仲間と楽しみながら風や竹細工を創作 | 山形県 山形市 | 高齢 | | ● | | | ● | | 団体 | |
| 6 | 18 | 野球がつなぐ、家族、地域の絆づくり | 群馬県 みどり市 | 若年 | ● | ● | | ● | ● | | 団体 | |
| 7 | 20 | PTA・おやじの会に属し、地域の子どもたちを育成 | 埼玉県 蕨市 | 中高年 | ● | ● | | | | | 団体 | |
| 8 | 22 | 子どもたちを笑顔にするためイベントに出動 | 埼玉県 戸田市 | 中高年 | ● | ● | ● | | | | 団体 | ● |
| 9 | 24 | マーマレード作りを通して、地域交流を活性化 | 東京都 杉並区 | 高齢 | | ● | | | ● | ● | 団体 | ● |
| 10 | 26 | 子育てパパ向けの大人気イベントを企画運営 | 新潟県 柏崎市 | 若年 | ● | ● | | | | | 団体 | ● |
| 11 | 28 | 参加型イベントで、若者を地域活動に巻き込む | 福井県 小浜市 | 若年 | ● | | ● | | | | 団体 | ● |
| 12 | 30 | 手探りだから楽しい、男性だけの料理活動 | 静岡県 掛川市 | 高齢 | | ● | | | | | 団体 | |
| 13 | 32 | 若者が元気に活躍できる場をおやじたちが創出 | 愛知県 大口町 | 中高年 | ● | ● | ● | | | | 団体 | ● |
| 14 | 34 | ストリートパフォーマンスで若者が元気なまちをつくる | 三重県 名張市 | 若年 | ● | | ● | ● | | | 団体 | ● |
| 15 | 36 | 市民センターと連携し、うつ病患者を積極的に支援 | 大阪府 枚方市 | 高齢 | | | | | | ● | 個人 | ● |
| 16 | 38 | 素晴らしい熟年男性を目指す、男の腕まくりOB会 | 大阪府 羽曳野市 | 高齢 | | ● | | | | | 団体 | ● |
| 17 | 40 | 子育てと地域づくりに「おやじ」のパワーを | 兵庫県 姫路市 | 中高年 | ● | ● | ● | | | | 団体 | ● |
| 18 | 42 | 男一人で、女性に混じって福祉ボランティアを牽引 | 岡山県 里庄町 | 高齢 | ● | | | | | ● | 団体 | |
| 19 | 44 | フリーペーパーの発行を通じて島おこしに貢献 | 山口県 周防大島町 | 若年 | | | ● | | ● | ● | 個人 | |
| 20 | 46 | 父と子が“一緒”だからこそ楽しめる活動を実践 | 徳島県 板野町 | 若年 | ● | ● | | | | | 団体 | ● |
| 21 | 48 | 血回しと草笛で幼児から高齢者までの交流を促進 | 福岡県 筑紫野市 | 高齢 | ● | | | | ● | ● | 個人 | ● |
| 22 | 50 | 手遊び披露、趣味のサークルなど多様な活動を展開 | 福岡県 筑紫野市 | 高齢 | | ● | | | ● | | 団体 | ● |
| 23 | 52 | だんだん小屋が生み出す、高齢男性の生きがい | 鹿児島県 南九州市 | 中高年 | | ● | ● | | ● | | 団体 | ● |

Ⅰ 好事例集について

1. 事例選定の方法

事例の選定にあたっては、全国の都道府県及び市区町村宛てにアンケート調査を実施し、そこで収集した男性の地域活動への参画事例 456 事例の中から、活動地域、年齢区分、ジャンル、活動単位、活動の場の広がりなどのバランスを考慮し、23 事例を選びました。

特に地域活動のジャンルについて、「地域での子育て支援、青少年育成」、「仲間づくり」、「まちづくり」、「スポーツ、アウトドア」、「趣味や技能」などを、男性による地域活動の好事例として着目しました。

事例抽出の手順

●男性の地域への参画事例収集のためのアンケート調査の実施

全国の都道府県、市区町村の男女共同参画担当部署を対象として、地域活動を積極的に行っているなど、好事例としてふさわしい男性を年齢層ごとに最大2名まで挙げてもらうアンケート調査を実施することによって、「男性の地域への参画事例」を収集しました。

※調査票は 59 ページ以降を参照してください。

●好事例選定基準の設定

●好事例の抽出

●男性に対するヒアリング調査の実施

●好事例集の作成

好事例選定基準

以下に示す視点を踏まえつつ、男性本人がどのようにすれば地域活動に参画できるようになるか、または、参画につなげるためにはどのような支援等が必要か、という観点から参考になる事例を選定することとしました。

●活動地域

次のブロックごとのバランスを考慮

- 北海道ブロック
- 東北ブロック
- 関東ブロック
- 中部ブロック
- 近畿ブロック
- 中国・四国ブロック
- 九州ブロック

●年齢区分

次の年齢区分のバランスを考慮

- 若年層：20～30歳代
- 中高年層：40～50歳代
- 高齢者層：60歳以上

●ジャンル

次のようなジャンルのバランスを考慮

- 地域での子育て支援、青少年育成（パパ教室、PTA活動、おやじの会など）
- 仲間づくり（料理教室、活動拠点、昔の遊びの伝承、父親同士の交流など）
- まちづくり（幅広い意味での地域活動、イベント開催など）
- スポーツ、アウトドア
- 趣味や技能
- その他（環境保全、福祉ボランティア、食育、うつ病患者支援、起業家支援など）

●活動単位

次のような活動単位のバランスを考慮

- 個人で活動
- 既存団体で活動（地域サークルやNPO、PTAなど）
- 新規団体を設立して活動（地域サークルやNPOなど）

●活動の場の広がり

次のような活動の場の広がりバランスを考慮

- 町内、学校など比較的身近な活動
- 市町村など比較的広範な活動

II 男性の地域活動への参画事例

地域を元気にする、マチおこし研究所の活動

活動地域（北海道安平町）

男性のプロフィール

氏名：及川 秀一郎さん

年齢層：中高年層（40～50 歳代）

活動概要：マチおこし研究所に所属し、メンバーの一人として川の環境保全活動などの地域を元気にするための活動を 15 年以上にわたり実施。

活動開始のきっかけ

岩手県一関市の「五区楽の里」との出会いが、「まちづくり」への意識を変えた

役場職員である私は、人事異動で企画担当となり、事務局的な立場で、半官半民の団体であった「マチおこし研究所（以下、「マチ研」という）」に入会しました。これがマチ研と関わるようになった最初のきっかけであり、当時はあくまで仕事の一環として始めたものでした。

しかし、平成 9 年に道外視察としてマチ研が訪問した岩手県一関市の五区楽の里（山間部の小さな部落）で、「五区楽の里づくり」の団体と交流し、その地域の人々の「温かいもてなしの心」に感動したことが、現在も活動をしている本当のきっかけであったと思います。通常の視察は、活動内容の説明や質疑応答、現地視察などで構成されるのが一般的であると思いますが、五区楽の里では、通常の内容に加えて、野点での雑談や地域総出での一関名物の餅の振る舞いなどが用意され、我々は大歓迎を受けました。そのとき、温かいもてなしの心こそが、「まちづくり」や「人づくり」の原点であると確信し、私自身のまちづくり活動に対する考え方や価値観、意識を大きく変えたのです。

それを契機に、職員の立場で参加していたマチ研の活動に、町民の立場として参加するようになり、マチ研の活動に、より一層熱心に取り組むようになりました。さらに、自分が住んでいる町内会の役員や P T A 会長などの要請があると、できる範囲で引き受けるようになりました。

活動の内容

地域を元気にするために、川の環境保全活動などを実践

マチ研の活動の目的は、安平町が元気になる活動をすることであり、これまで多岐にわたる事業に取り組んできました。

町内を流れる安平川に関する事業として、河川の清掃活動、植栽活動、魚卵放流、稚魚放流、安平川フォーラム（学社融合事業）などを行っています。

このほか、道内外視察によるまちづくり団体との交流事業や炭焼き事業、街路樹の実を使ったジャムづくり（実験）、町内の団体との共催による田舎盆踊り、マチ研情報紙「パワフル安平」の町民への全戸配布、樽たるハウス製作（町民が集う場所づくり）などを実践してきました。

活動は、休日以外に平日に行うこともあります。平日の場合、現職のある所員は参加が難しいのですが、現役を退いた方々を中心に集まれる人たちだけで、無理のない範囲で活動しています。



安平川フォーラム



魚卵放流

子どもの成長にもつながっていることを実感したとき

地域や学校の活動を通じて多くの人々と知り合いになることを生きがいに、今日まで活動を続けてきました。「〇〇の活動」としてやっていることが、時間が経つと、全く関係ないことにつながっていたり、自分の子どもの成長につながっていたりすることがあります。そんなとき、活動して良かったと感じます。

振り返ると、もう15年以上も活動を続けていますが、「継続は力なり」そのものであり、私が数年前からはまっている「マラソン」の醍醐味にも近いのかもしれませんが。周囲から見れば、時間と労力を使って大変そうに見えるかもしれませんが、やっている本人は「好きでやっている」、「健康のためにやっている」のですから、ストレスは感じません。楽しみながら活動することが、継続の秘訣であると思います。

周囲との関わり

家族、職場の理解と支援を得ながら、幅広いメンバーとともに活動

家族、特に3人の子どもも一緒にマチ研の事業に参加して、一緒に楽しんで活動してきました。

マチ研には、商店経営者、元郵便局長、JR社員、農業者、主婦、PTA繋がりの友人など、多種多様の経歴の持ち主が集まっており、お互いに助け合いながら、そして楽しみながら活動を継続しています。また、職場関係では、マチ研の活動に賛同した多くの職員が時間を作って、できる範囲で、ボランティアとして参加してくれていますし、教育委員会との協働事業となった安平川フォーラム（学社融合事業）では、私は一町民として参加し、行政とのパイプ役を果たせていると思っています。安平町からは、財政的な支援として年間40万円ほどの交付金を受け、活動資金に充てています。

直面した課題と解決方法

新規メンバーをもっと増やしたい

マチ研の定例会を基本的に毎月1回行っています。所長、事務局長2人が議案を用意し、参加者全員が発言します。参加者が何かを遠慮することはありませんし、発言しなくても特に構わないので、今のメンバーは居心地が良いと思います。言い合える仲間であり、心を許せる友人に近い関係ができています。

マチ研に新たに加わる人が少ないことは大きな課題となっています。しかし、平成18年の町の合併以降、合併した地区の方が数名加わったり、以前、PTAと一緒に活動していた方が数年転勤して戻ってから所員に加わったりと、マチ研の良好な人間関係や「義務ではなく、ゆるやかに参加して良い」という雰囲気の魅力で、新たにメンバーになる人も徐々に増えています。新しい、そして強力な個性あるメンバーの加入は、マチ研の新たな事業展開（樽ハウス事業など）につながっています。

これからの展望

背伸びせず、楽しみながら、マチ研の活動を継続

活動したことによる効果は大きく、自分自身にとっては、仕事面でも私的な場面でもそれまでの人脈が何倍にも広がりました。道内外の多くの団体と交流することを通じて、数多くの刺激を受け、精神的にも成長ができていると感じますし、新たな仕事に挑戦する意欲も出てきました。

今後は、何よりも「継続は力」ですので、未長く、背伸びせずに楽しんで活動していきたいと考えています。特に、興味のある「持続可能な地域づくり」や「循環型社会の仕組みづくり」などにマチ研メンバーとして挑戦していきたいと思っています。

パパ・スイッチ事業を通じてダメパパから脱却

活動地域（北海道芽室町）

男性のプロフィール

氏名：尾岸 信さん

年齢層：若年層（20～30歳代）

活動概要：芽室町の父親支援事業「パパ・スイッチ事業」の実行委員となったことを機に、地域活動に積極的に参加。実行委員メンバーは12名。

活動開始のきっかけ

「イクメンの星」と出会い、「自分を変えたい」との思いを抱く

2年ほど前まで、私は子育てに全く関心がなく、気が向いたら子どもと接するくらいで、子どもとはほとんど会話をしない典型的なダメなパパでした。休日には、自分一人、社会人サッカーを楽しんでいました。子育ては全て妻に任せきりだったのです。

妻は、「育児ネットめむろ」が開催する子ども連れで談話を楽しめる「茶話会」に参加していました。その茶話会に、厚生労働省認定の「イクメンの星」である五十嵐 豊さん（芽室町在住、パパ・スイッチ事業実行委員長）がいらっしゃり、家族ぐるみでの交流が始まり、交流する中で、「このお父さんは何かが違う」と感じるようになりました。特に、五十嵐さんからは、「子育ては仲間がいると楽しい」ということを教わりました。

その後、NPO法人ファザーリング・ジャパンの安藤哲也氏の講演を聞き、私のダメパパぶりを思い知らされたとともに、これからの男性は育児に積極的に関わるべきとの思いを強くし、本格的に育児や家事に目覚めました。そして、「自分自身を変えたい」という気持ちで町のパパ・スイッチ事業の実行委員に自らの意思で加入しました。平成22年4月の発足当時から現在まで、同事業の実行委員を務めています。

活動の内容

父子が楽しめるイベントを企画・運営

実行委員会への参加、各種イベントの企画・運営などで、月に1回はパパ・スイッチ事業のメンバーと顔を合わせています。イベントは、子どもと父親が楽しめるものを企画するようにしています。実行委員のメンバーは、私よりも皆、年上ということもあり、その方々の豊富な経験に学びながら、イベントを自分たちの手で形にしています。

パパ・スイッチ事業以外でも、町の子育て支援団体「育児ネットめむろ」の運営委員、長男が在籍する幼稚園のPTA副会長として地域活動に関わっています。

◇パパ・スイッチ事業◇

「父親が子育てに参加しやすい環境を地域で作ろう」、「子どもが生まれたらパパの気持ちを家族にスイッチするお手伝いをしよう」といった気持ちから、町と「育児ネットめむろ」が協力して平成22年に立ち上げた子育て支援事業。

◇パパ・スイッチ事業の主な取り組み◇

- 「父親交流サイト」の開設・運営
- 父親同士の交流会の開催
- 講演会・イベント（家族料理教室、親子体操教室等）の実施



家族が喜ぶ姿を見ると、自分も元気に

私の子育て支援活動を見に来た妻や子どもが喜んでいる姿を目にすると、私自身も元気をもらい、やりがいにつながっています。子どもからは、「お父さん、今日はがんばったね」と言われます。妻からは、「以前とは別人のように、子育てに参加してくれるようになったね」と言われています。

子どもとの会話も、活動を始める前と比べるとずいぶん増えました。また、日々の子どもの成長に感謝するようになるなど、子どもに対する接し方や考え方が変わってきたと思います。さらに、最近では料理をすることも楽しくなっています。

周囲との関わり

ベテランの女性メンバーの存在が大きい

実行委員会のメンバーの中には、子育てのベテランの女性がいます。「育児ネットめむろ」の会長及び副会長で、このお二人がいることで、パパ・スイッチ事業の活動がより円滑に進められている気がしています。子育ての豊富な経験や女性ならではの視点は、お父さんたちが困ったときに助けられますし、会のまとめ役としても頼れる存在になっています。

家族も、私がパパ・スイッチ事業の活動をすることにに対して協力的です。実行委員会は基本的に夜間に開催されますが、妻は前向きに送り出してくれます。私も、できる限り妻の負担を減らそうと、子どもたちをお風呂に入れてから実行委員会に参加するようにしています。

直面した課題と解決方法

お父さん仲間がいる安心感。これがどんな課題も解決する力に

活動に対するモチベーションは、パパ・スイッチ事業実行委員会の仲間と会うことで維持できています。メンバーから受ける刺激は大変多く、できる限り、実行委員会には参加するようにしています。仕事との両立においては無理なくこなしてきましたが、仕事がどんなに大変な時でも、他のお父さんたちも苦勞をされていて、自分一人ではないと思えることが心の支えになっています。

現在、我々が抱えている課題は、「参加するメンバーが固定になってしまい、新しいお父さんが参加しないこと」です。パパ・スイッチ事業そのものが、他のお父さんたちのところまで届いていないことや、お父さん自身が参加してみようと思えるような、魅力的なイベントになっていないことが問題ではないかと考えています。このため、パパ・スイッチ事業の情報発信の仕方や内容の見直しにこれから取り組んでいかなければならないと思います。

これからの展望

子育てするパパのための集いの場をつくりたい

パパ・スイッチ事業での活動は、今後もずっと続けていきたいと思っています。

現在、新たな取り組みとして考えているのは、「手作りピザを作るための石窯を作って、子育てをしているお父さんたちにピザをふるまう」というもの。パパ・スイッチ事業のイベントの一つとして、「家族で楽しみながら食べられるイベントがあるといいね」という意見を具体化したものです。地域にある料亭の庭に石窯を置かせていただき、そこを子育てをするお父さんたちの集いの場としたいと思っています。さらには、地域の方々にも開放することで、より多くの人の交流にも役立てたいと考えています。

アウトドア活動でたくましい子どもを育てる

活動地域（青森県五所川原市）

男性のプロフィール

氏名：五十嵐 賢志さん

年齢層：中高年層（40～50歳代）

活動概要：NPO法人「子どもネットワークすてっぷ」主催の「すてっぷ子ども教室」のスタッフとして、「外遊び」を通じてたくましい子どもを育てる活動を実践している。

活動開始のきっかけ

NPO主催の「お父さん塾」をきっかけに、地域の子育てに積極的に関わるように

平成18年4月、五所川原の教会の牧師として赴任しました。当時、幼稚園児と乳飲み子を抱えていましたので、妻は子育て支援の場へ出かけ、まちの人々との接点を持つようにしていました。そのような中で、NPO法人「子どもネットワークすてっぷ」と出会い、地域全体で子育てをするという活動の趣旨に共鳴して会員となりました。当初は妻と子どもたちのみイベントに参加していましたが、交流が進むうちに私にも声がかかり、お父さんたちの出番を作ろうということで、関わりのあるお父さんたちが集められ、「お父さん塾」が作られました。私はこの時点では自発的ではなく、むしろ受動的な参画でした。

「お父さん塾」では、お父さんと子どもたちが遊ぶプログラムを作りました。話し合う中で生まれた企画は「がんこおやしをやっつけろ」というタイトルで、昔の遊びでお父さんに挑戦するものです。私はアウトドアが趣味で、子どもをたくましく育てるには外遊びが不可欠だと考えていたため、木登りを提案し、ロープやハーネス、ヘルメットなどで安全を確保しつつ、子どもたちに木登りの体験をさせました。ここでのお父さんたちとの仲間づくりの経験は、他地域から来た私を仲間に入れてくれるものでしたので、とてもありがたかったです。

「お父さん塾」でのプロジェクトを終えた後、これまでの活動を継続させるべく、私は同NPO法人が開催している「すてっぷ子ども教室」のスタッフになりました。NPOの場合、様々な助成金を受けて新たな取り組みに挑戦しやすいというメリットがあるため、私は、NPOに所属しながら、子どもたちに外遊びを促す活動を展開していこうと決めたのです。こうして、私は積極的に地域の子育て活動に関わるようになりました。

活動の内容

テント作りや木登りで、生き抜く力を育む

平成22年に五所川原市で市民提案型事業の公募がありました。NPO法人「子どもネットワークすてっぷ」事務局から打診を受けた私は、アウトドアの知識を生かし、インディアンの移動式住居である「ティピー」というテントをつくるワークショップの企画を提案しました。ティピーはとても丈夫で、中で焚き火ができます。これを子どもたちと手縫いし、同年11月に「焚き火ミーティング」のタイトルで、焚き火料理などを楽しむイベントを開催しました。

翌年、同市教育委員会から打診を受け、「つながりあい支えあい家庭教育応援事業」（青森県教育委員会主催）として「五所川原外遊び塾」を結成しました。アウトドアのワークショップを開き、親子で体験するというものです。ロープを使って木に登る「ツリーイング」、ダッチオープンを使ったクッキング、トレッキング、ブーメランとキャンドルの作成などを行いました。

平成23年3月11日の東日本大震災以降、自然災害に遭ってもたくましく生き抜く力を育むことが重要であると痛感したため、こうした活動は今後も続けていくべきだと考えています。

みんなと活動すること。それが楽しい

アウトドアの活動は、親子、子ども同士、親同士、子どもと親以外の大人など、幅広い関係者間の交流を生み出しています。「ティピー」というテント作りで参加者全員で手縫いや組み立てをしたように、アウトドアの活動は共同作業がしやすく、自然と会話が弾むところに楽しさを見出しています。とにかく、みんなと活動すること、そのこと自体が楽しく、やりがいがあります。

周囲との関わり

理解し合い、応援する姿勢が行動の支え

地域の中で自然体験活動を広めたいという思いはかねてからありましたが、一人でやるには限界があります。このため、NPO法人「子どもネットワークすてっぷ」との出会いには大きな意義がありました。まず、やりたいことをやらせてくれる、という雰囲気があります。お母さんたちを中心に子育て支援をしてきた団体なので、私の提案は突拍子もないことのように見えたと思います。最初は半信半疑の人たちも、成果を目にした時、感動の眼差しに変わります。それが次の活動の意欲になりました。否定しない、理解し合い、応援するという基本的な姿勢が、行動の支えです。

活動で心がけていること

子どもと触れ合える時間は短く、尊い

男性がこのような地域活動をする場合、問題となるのは「仕事との両立」ということでしょう。幸い私は、仕事をやりくりすることができましたが、「男性は家族を養い、家計を支える」という意識が強く、仕事優先になりがちです。しかし、子どもが子どもでいる時間はとても短く、その時間は取り返せません。より多くの収入を得ることより、今、家族と関わることの方が尊いという意識が大切だと思います。

男性の場合、「何か具体的にこうすればいい」と決めつけるのではなく、思想的・哲学的な面を引き出せるとよいのではないかと思います。夢を持つとか、理想を追い求めるとか、さらに生涯、少年の心を持ち続け、「遊ぶ」ことに長けている男性も多いと思います。ですから、職場以外で、お父さん同士の仲間ができれば、お互いに刺激し合い、家族同士の交流にも広がっていくのではないのでしょうか。

これからの展望

アウトドアでイクメンを育てる

私がこの活動で目指していることは、「アウトドアでイクメンを育てたい」ということです。母親の育児に協力するというより、自分の得意分野を活かした育児があると思います。アウトドアでは、自然に対して向き合いながら、コミュニケーション能力が養われます。活動を共有し、感動を共有することで、親子、子ども同士、親同士、そして多くの人間の絆が培われるのです。社会には、マニュアルに書いていないことがたくさん起こります。それに直面した時、自然体験で培った知恵と能力、さらに、生き抜く力が役に立つと思います。

今後は、拠点となるフィールド作りを視野に入れ、いつでも利用できる里山を自分たちで管理したいと思っています。そして、原発事故で不自由な生活を強いられている子どもたちを招き、保養と体験のプログラムを開催したいと考えています。